InterSec/NQ30
(Ver 3.1)

ユーザーズマニュアル

日本電気株式会社

UL1187-601
PCQ118760131-1

目次

・本書中の会社名、商品名等は各社の商標、または登録商標です。
・SecureVisor は NEC System Technologies, Ltd. の登録商標です。

１．はじめに

１．１　コンポーネント構成

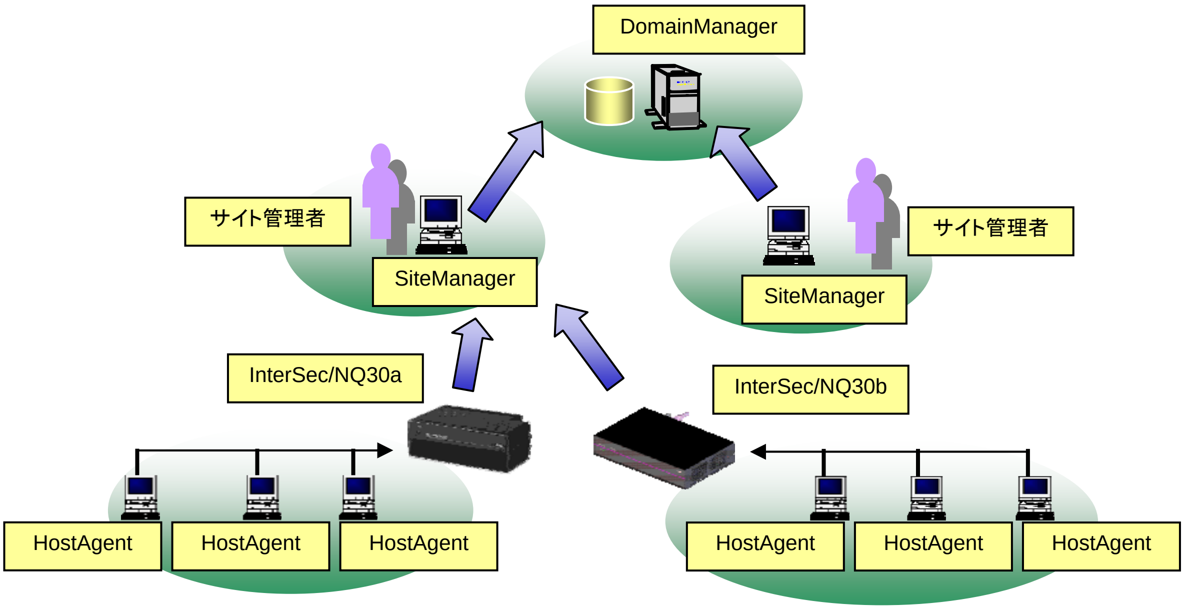
InterSec/NQ30a Ver3.1、および InterSec/NQ30b Ver3.1 は、SecureVisor Ver3.1 NetworkAgent をアプライアンス化したものです。SecureVisor は下記のコンポーネントから構成されます。

コンポーネント	説明
SecureVisor DomainManager	SiteManager からのデータを収集します。 収集した NetworkAgent やホスト情報の管理方法により、以下の 2 つのモードがあります。 【分散管理モード】 　(従来どおり)SiteManager で管理します。 【集中管理モード】 　DomainManager で統合管理します。
SecureVisor SiteManager	NetworkAgent からのデータを収集し、DomainManager に転送します。
SecureVisor RemoteConsole	SiteManager の画面（サイトコンソール、ホスト一覧）を、リモートの PC から操作可能にします。
SecureVisor RemoteHosts	SiteManager の機能のうち、ホスト一覧のみをリモートの PC から操作可能にします。
SecureVisor NetworkAgent	ネットワーク上のパケットを監視し、データを生成し、SiteManager に通知します。
SecureVisor HostAgent	HostAgent インストールマシンの OS 種別やウイルスチェックソフトの情報を、NetworkAgent に通知します。
InterSec/NQ30a InterSec/NQ30b	SecureVisor NetworkAgent のアプライアンス版です。 SecureVisor NetworkAgent とは設定方法などで異なる点がありますが、基本機能に差異はありません。

本書では、このうち、InterSec/NQ30a、InterSec/NQ30b のセットアップ手順、およびコマンドラインインターフェースについて説明します。SecureVisor Ver3.1 NetworkAgent の詳細は、SecureVisor Ver3.1 のマニュアル・ヘルプを参照してください。

１．２　各モジュールの相関図

各モジュールの相関図を以下に示します。



InterSec/NQ30a、またはInterSec/NQ30bは、各ネットワーク（＝IPサブネット＝ブロードキャストドメイン）に１台設置します。１台で約1,000台のホスト情報を管理可能です。また、SiteManager上から設定を変更することにより、一つのVLANを複数のサブネットで共有している環境（共有サブネット）（※）も１台のInterSec/NQ30a、またはInterSec/NQ30bで監視可能となります。詳細は「SiteManagerのオンラインヘルプ」を参照してください。
なお、拡張機能としてタグVLAN（IEEE802.1Q）環境での動作をサポートしています。タグVLAN環境への設置については、１．５章を参照してください。

(※) CapsSuite環境では、「共有ネットワーク対応機能」を使用することはできません。

１．３　用語説明

本書中の説明で使用する略語は、以下の通りです。

略語	意味
NQ30a	InterSec/NQ30a Ver3.1 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30a Ver3.1 のみ該当します。
NQ30b	InterSec/NQ30b Ver3.1 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30b Ver3.1 のみ該当します。
NQ	InterSec/NQ30a Ver3.1、および InterSec/NQ30b Ver3.1 を指します。文中にて左記の略語が指示された場合、InterSec/NQ30a Ver3.1、および InterSec/NQ30b Ver3.1 共通となります。
SiteManager	SecureVisor Ver3.1 SiteManager を指します。

１．４　関連マニュアル

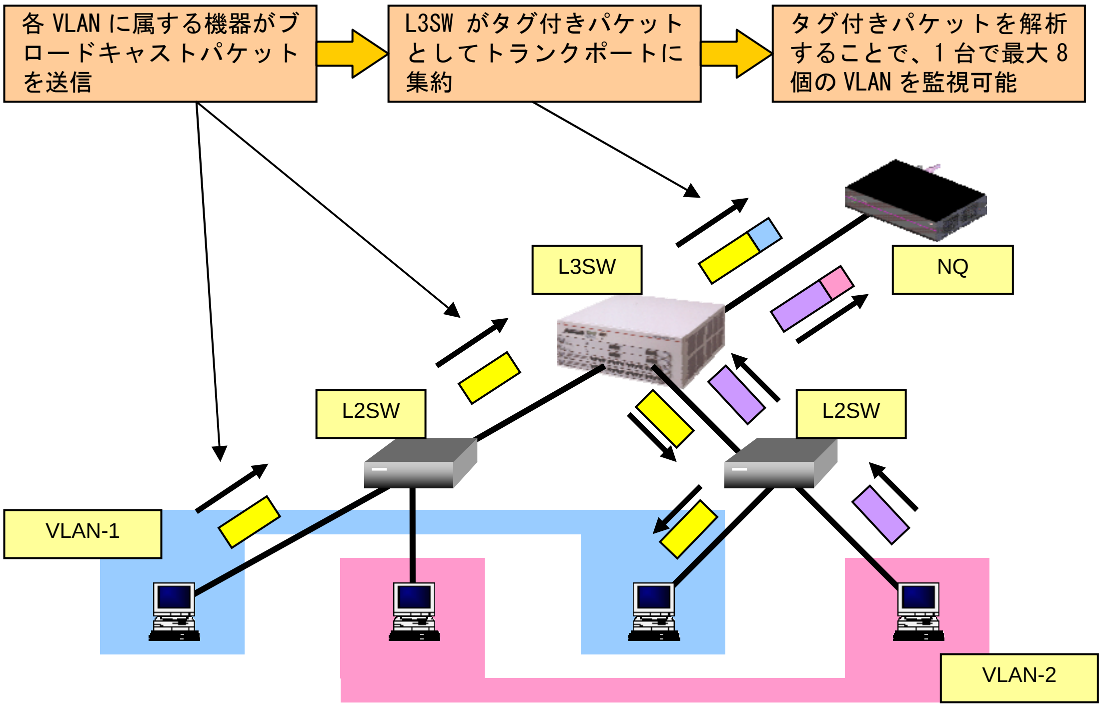
NQ の導入に辺り、以下のマニュアル類を参照してください。

「InterSec/NQ30a スタートアップガイド」（NQ30a ユーザの場合）
「InterSec/NQ30b スタートアップガイド」（NQ30b ユーザの場合）
「SecureVisor Ver3.1 SiteManager インストールマニュアル」

※ バージョンアップを実施されたユーザは、お手持ちのスタートアップガイドに記載されている設定手順と異なる場合がありますので、本書の各設定方法を確認してください。

１．５　タグ VLAN（IEEE802.1Q）環境時の相関図

Ver3.1 よりタグVLAN（IEEE802.1Q）環境(※)での動作をサポートしています。L3 スイッチにタグ付きパケットの送受信を可能とするトランクポートを設定し、NQを接続してデータ収集を行います。これにより、１台のNQで最大８個のVLANを監視できます。



(※) サポート対象のタグ VLAN（IEEE802.1Q）環境は、IP サブネット ベース VLAN、ポート ベース VLAN です。

[本機能使用時の注意事項]

- 管理できるホスト台数は最大 1,000 台程度となります。
- 「共有ネットワーク対応機能」を共存させることはできません。機能を無効に設定してご利用ください。「共有ネットワーク対応機能」の詳細は、「SiteManager のオンラインヘルプ」を参照してください。
- 監視対象の VLAN 数に合わせて別途 VLAN ライセンスをご購入ください。

２．セットアップ

２．１　セットアップ方法

NQ のセットアップ方法は、以下の 2 種類があります。

・USB メモリを使用して設定ファイルを反映させる
・telnet を介したネットワーク接続によりコマンドを入力する

USB メモリを使用した設定方法は、２．２章を参照してください。ネットワーク接続を使用した設定方法は、２．３章を参照してください。

２．２　USB メモリを使用したセットアップ

２．２．１　USB メモリを使用したセットアップ手順

USB メモリを使用したセットアップ手順は以下の通りです。

① SiteManager をインストールする

「SecureVisor Ver3.1 SiteManager インストールマニュアル」を参照し、管理サーバに SiteManager をインストールしてください。

② USB メモリに設定ファイルを作成する

USB メモリのルートフォルダに設定ファイルを作成してください。設定ファイルの作成方法は、２．２．２章を参照してください。NQ は、USB メモリのルートフォルダに保存された設定ファイルのみ認識することができます。

③ USB メモリを差込み、NQ を起動する

NQ 筐体へ、設定ファイルを保存した USB メモリ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。
但し、MQ30a の初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態から確認してください。
なお、USB メモリから設定ファイルを認識させることができるのは、起動時のみです。NQ の起動後に筐体へ USB メモリを接続しても、設定ファイルを認識させることはできませんのでご注意ください。

④ USB メモリの認識状態を確認する

NQ が USB メモリを正常に認識したことを確認するため、起動から約１分経過後、NQ 筐体から USB メモリを取り外し、USB メモリを PC に接続してください。NQ が USB メモリを正常に認識できた場合は、USB メモリのルートフォルダにテキストファイル（svconflog.txt）が作成されます。テキストファイルの詳細は、６．２章を参照してください。

⑤ パスワードの認証結果を確認する

NQ が USB メモリ内の設定ファイルから認証パスワードを確認する際に認証エラ

ーとなった場合、④で作成されたテキストファイルにエラーログが出力されます。エラーログが出力された場合は２．２．２章を参照し、設定ファイルの確認を行ってください。なお、エラーログの詳細は、６．２章を参照してください。

⑥ NQ の設定状態を確認する

NQ の起動時に、設定ファイルで接続先として指定した SiteManager インストール PC と正常に通信可能で、SiteManager サービスが起動している場合は、設定ファイルにて指定したエージェント名のアイコンが SiteManager インストール PC 上のサイトコンソールに表示されます。

サイトコンソールに表示されない場合や SiteManager サービスが起動していない場合は、６．３章を参照して NQ の設定状態を確認してください。

⑦ VLAN インターフェースの設定状態を確認する

非タグ VLAN 環境で使用する場合、VLAN インターフェースが設定されていると、正常にデータ収集ができません。ネットワークインターフェース確認コマンド（３．６．３章参照）で設定状態を確認し、VLAN インターフェースが設定されていれば VLAN インターフェース削除コマンド（３．６．２１章参照）を使用して削除し、NQ の再起動を行ってください。

タグ VLAN 環境で使用する場合、VLAN インターフェースの設定数は、最大で 8 個までのサポートとなります。USB メモリからのセットアップでは、VLAN インターフェースの追加処理しかできないため、ネットワークインターフェース確認コマンド（３．６．３章参照）で設定状態を確認し、不要な VLAN インターフェースが設定されていれば VLAN インターフェース削除コマンド（３．６．２１章参照）を使用して削除し、NQ の再起動を行ってください。

２．２．２　設定ファイル作成方法

［ファイル名］

svconfig.txt （全て半角小文字）

［注意事項］

- 設定ファイルは、全て半角文字で作成してください。
- 設定ファイルで使用可能な文字コードは、Shift-JIS、および EUC です。また、使用可能な改行コードは、<CR>+<LF>、および<LF>です。使用するテキストエディタの設定を確認の上、作成してください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。
- 設定ファイルは、同一のパラメータを複数行記述しないでください。
- 設定ファイルは、1 行につき 1 個のパラメータを記述してください。複数のパラメータを記述する場合は、改行してください。
- パラメータと設定値の間は、コロン（:）で区切ってください。
- 設定必須パラメータは、パラメータに対する設定値を必ず設定してください。
- 設定可能パラメータは、設定値がなければ設定ファイルへ記述しないでください。
- 設定ファイルへ設定パラメータを記述しない場合、設定済の値（工場出荷時は既定値）が使用されます。

［設定項目］

設定パラメータは、非タグ VLAN 環境で使用する場合、２．２．３章を参照してください。タグ VLAN 環境で使用する場合、２．２．４章を参照してください。

２．２．３　非タグ VLAN 環境設置時の設定パラメータ

■設定必須パラメータ

パラメータ	設定内容
Password	NQ の認証パスワードを設定します。設定ファイルの 1 行目に記述してください。本パラメータが 1 行目にない場合、設定ファイルに記載された各パラメータが反映されません。 工場出荷時の認証パスワードの既定値は admin です。(半角小文字) なお、認証パスワードはセキュリティ対策として既定値から変更することを推奨します。認証パスワードの変更方法は３．６．２章を参照してください。
AgentName	サイトコンソールに表示するエージェント名を設定します。1 個のみ設定可能です。 使用可能な文字は、半角英数字、ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)、小括弧((,))からなる 1 バイト以上 32 バイト以下の文字列で、大文字、小文字は区別されません。 また、以下に該当する文字列を設定した場合は、SiteManager に登録することができません。 ●Windows 予約デバイス名 (AUX、CON、NUL、PRN、CLOCK$、COM0～COM9、LPT0～LPT9) ●エージェント名の先頭、あるいは末尾がドット(.)である ●2 バイト文字(全角文字)を含む ●エージェント名の文字長が 32 バイトを超える
IpAddress	NQ が使用する IP アドレスを設定します。1 個のみ設定可能です。
NetworkMask	NQ を設置するネットワークのネットワークマスク(サブネットマスク)を設定します。1 個のみ設定可能です。
ManagerAddress	NQ の管理/操作を行う SiteManager インストール PC の IP アドレスを設定します。ホスト名で設定することはできません。1 個のみ設定可能です。

■設定可能パラメータ

パラメータ	設定内容
DNSServer	NQを設置するネットワークで使用されているDNSサーバのIPアドレスを設定します。最大3個まで設定可能です。複数のDNSサーバを設定する場合は、設定値を半角スペースで区切って記述してください。
DomainName	NQ を設置するネットワークのドメイン名を設定します。設定文字数の合計が241文字以内であれば、複数のドメイン名が設定可能です。複数のドメイン名を設定する場合は、設定値を半角スペースで区切って記述してください。なお、文字数制限には、複数設定時に引数の間に設定する半角スペースも含まれます。 ドメイン名を削除したい場合は、ダブルクォート（"）を使用して以下のように入力してください。 DomainName:""
DefaultGateway	NQ を設置するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。1個のみ設定可能です。

[設定例]

設定	説明
Password:admin	認証パスワード
AgentName:isnq30	エージェント名
IpAddress:192.168.250.250	エージェントのIPアドレス
NetworkMask:255.255.255.0	ネットワークマスク
ManagerAddress:192.168.250.249	サイトマネージャアドレス
DNSServer:192.168.250.2 192.168.250.3	DNSサーバアドレス
DomainName:isnq.dom	DNS ドメイン名
DefaultGateway:192.168.250.1	デフォルトゲートウェイ

２．２．４　タグVLAN環境設置時のパラメータ

■設定必須パラメータ

パラメータ	設定内容
Password	NQの認証パスワードを設定します。(※)
AgentName	サイトコンソールに表示するエージェント名を設定します。(※)
IpAddress	NQに登録するIPアドレスを設定します。1個のみ設定可能です。本パラメータに登録するIPアドレスは、必ず“127.0.0.1”を設定してください。
ManagerAddress	NQの管理/操作を行うSiteManagerインストールPCのIPアドレスを設定します。(※)

■設定可能パラメータ

パラメータ	設定内容
DNSServer	NQを設置するネットワークで使用されているDNSサーバのIPアドレスを設定します。(※)
DomainName	NQを設置するネットワークのドメイン名を設定します。(※)
DefaultGateway	NQを設置するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。(※)

（※）設定内容は、２．２．３章の各パラメータの説明を確認してください。

■VLAN 設定パラメータ

本パラメータは、タグ VLAN 環境設置時は設定必須パラメータとなります。但し、監視対象の VLAN 数が 8 未満の場合、全てのパラメータを記述する必要はありません。VLAN 数に応じて使用パラメータ数を変更してください。

パラメータ	設定内容
Vlan1 Vlan2 Vlan3 Vlan4 Vlan5 Vlan6 Vlan7 Vlan8	NQ の VLAN インターフェースに登録する IP アドレス、ネットワークマスクの有効ビット数、VLAN ID を設定します。各パラメータに対して、1 個のネットワーク設定が可能です。左記のパラメータを設定数に応じてご使用ください。パラメータの記述方法を、以下に示します。 Vlan1:xxx.xxx.xxx.xxx yy zzz xxx.xxx.xxx.xxx：IP アドレス yy：有効ビット数(設定値：8～32) zzz：VLAN ID（設定値：0 ～ 4094） 設定時は、以下の点にご注意ください。 ●VLAN インターフェースの設定数は、最大で 8 個までのサポートとなります。設定数に応じて VLAN ライセンスを購入の上、ご使用ください。 ●IP アドレス、ネットワークマスク、VLAN ID の記述は必須です。記述が不足している場合、設定ファイルの全ての内容が反映されません。 ●パラメータは、1 行目から順番に読み込まれます。VLAN ID が重複したパラメータが存在する場合、最後に読み込まれた重複 VLAN ID のパラメータが反映されます。 ●本パラメータによって、VLAN 設定の追加処理が実行されます。NQ に同一 VLAN ID が設定済の場合、該当の設定値を設定ファイルの内容に変更します。NQ に異なる VLAN ID が設定済の場合、設定ファイルの内容を追加登録します。不要な VLAN 設定は、３．６．２１章を参照して削除してください。

[設定例]

```
Password:admin
AgentName:isnq30
IpAddress:127.0.0.1
ManagerAddress:192.168.250.249
Vlan1:192.168.10.250 24 111
Vlan2:192.168.20.250 24 112
Vlan3:192.168.30.250 24 113
Vlan4:192.168.40.250 24 114
Vlan5:192.168.50.250 24 115
Vlan6:192.168.60.250 24 116
Vlan7:192.168.70.250 24 117
Vlan8:192.168.80.250 24 118
DNSServer:192.168.10.2 192.168.10.3
DomainName:isnq.dom
DefaultGateway:192.168.10.254
```

認証パスワード
エージェント名
NQのIPアドレス
サイトマネージャアドレス
VLAN ID 111の設定
VLAN ID 112の設定
VLAN ID 113の設定
VLAN ID 114の設定
VLAN ID 115の設定
VLAN ID 116の設定
VLAN ID 117の設定
VLAN ID 118の設定
DNSサーバアドレス
DNSドメイン名
デフォルトゲートウェイ

２．３　ネットワーク接続を使用したセットアップ

２．３．１　ネットワーク接続を使用したセットアップ手順

telnetを介したネットワーク接続を使用したセットアップ手順は以下の通りです。

①SiteManagerをインストールする

「SecureVisor Ver3.1 SiteManager インストールマニュアル」を参照し、管理サーバにSiteManagerをインストールしてください。

②NQを起動する

NQ筐体へ、ネットワークに接続されたLANケーブル(※)、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。

但し、NQ30aの初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態から確認してください。

(※) タグVLAN環境で使用する場合、工場出荷時の状態ではL3SWのタグ付きパケットの送受信を可能とするトランクポートに接続しても通信できない場合があります。確実に設定を行うため、非タグ VLAN 環境に接続して設定を行い、NQの再起動後、トランクポートに接続してください。

③telnetクライアントPCを用意する

PCにNQと同じネットワークのIPアドレス(例えば192.168.250.111)を設定し、NQと同じLANに接続してください。接続後、pingコマンドなどを使用してNQとの通信状態を確認してください。

［実行例］

C:¥> ping *192.168.250.250* (※)

(※)斜体部分は、NQに設定されている IP アドレス、あるいは IP アドレスに割り当てられているホスト名を設定してください。

NQと通信できない場合は、NQに設定されているネットワークと接続できるよう、

telnet クライアント PC のネットワーク設定を確認してください。なお、NQ の初期ネットワーク設定は以下の通りです。

IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 192.168.250.1
DNS サーバアドレス	: 設定なし

④ ネットワーク接続を使用してセットアップする

telnet クライアント PC で、telnet を介して NQ に接続し、セットアップを行ってください。Windows PC のコマンドプロンプトを使用したセットアップ方法の例を２．３．２章に記載していますので確認してください。セットアップ完了後は、設定内容を反映させるため、必ず NQ の再起動を行ってください。なお、各コマンドの詳細は、３章、４章を参照してください。

⑤ NQ の設定状態を確認する

NQ の起動時に、接続先として設定した SiteManager インストール PC と正常に通信可能で、SiteManager サービスが起動している場合は、NQ に設定されているエージェント名のアイコンが SiteManager インストール PC 上のサイトコンソールに表示されます。

サイトコンソールに表示されない場合や SiteManager サービスが起動していない場合は、６．３章を参照して NQ の設定状態を確認してください。

２．３．２　ネットワーク接続を使用したセットアップの実行例

［注意］

- 設定しない属性については、該当のコマンドを実行する必要はありません。
- 非タグ VLAN 環境で使用する場合、VLAN インターフェースが設定されていると、正常にデータ収集ができません。ネットワークインターフェース確認コマンド（３．６．３章参照）で設定状態を確認し、VLAN インターフェースが設定されていれば VLAN インターフェース削除コマンド（３．６．２１章参照）を使用して削除してください。
- タグ VLAN 環境で使用する場合、VLAN インターフェースの設定数は、最大で 8 個までのサポートとなります。設定数に応じて VLAN ライセンスを購入の上、ご使用ください。

［実行例］

■非タグ VLAN 環境設置時の実行例

```
C:¥>telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna> pass admin
+ Welcome to SvNaConsole.
svna> set us admin xxxxxxxx
+ Command succeeded.
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna> set ns nameserver 10.1.2.6 10.1.2.7
+ Command succeeded.
svna> set ns domain isnq30.dom
+ Command succeeded.
svna> list if
= Command succeeded.
eth0    inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:172.16.171.255
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
eth0.100        inet addr:192.168.10.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.10.255
        Default Gateway:192.168.10.254
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna> remove vlan eth0.100
+ Command Succeeded.
svna> set if eth0 address 10.1.2.252 mask 255.255.255.0
+ Command succeeded.
svna> set gw 10.1.2.254
+ Command succeeded.
svna> set na stop
+ Command succeeded.
svna> set hn isnq30
+ Command succeeded.
svna> set sm 10.1.2.253
+ Command succeeded.
svna> reboot
 + Command succeeded.
```

- → telnet によるネットワーク接続の詳細は３．２章参照
- → 認証コマンドの詳細は３．６．１章参照
- → パスワード変更コマンドの詳細は３．６．２章参照
- → ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドの詳細は３．６．６章参照
- → DNS サーバアドレス設定コマンドの詳細は３．６．９章参照
- → DNS ドメイン設定コマンドの詳細は３．６．１０章参照
- →ネットワークインターフェース確認コマンドの詳細は３．６．３章参照
- →VLAN インターフェースが設定されている場合、必ず削除してください
- →VLAN インターフェース削除コマンドの詳細は３．６．２１章参照
- → ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は３．６．７章参照
- → デフォルトゲートウェイ設定コマンドの詳細は３．６．２２章参照
- → エージェント停止コマンドの詳細は３．６．２５章参照
- → エージェント名設定コマンドの詳細は３．６．１５章参照
- → マネージャ設定コマンドの詳細は３．６．１４章参照
- → 再起動コマンドの詳細は３．６．１３章参照

■タグ VLAN 環境設置時の実行例

```
C:¥>telnet 192.168.250.250 23496            → telnetによるネットワーク接続の詳細は
- 400 require authentication                   ３．２章参照
svna> pass admin                            → 認証コマンドの詳細は３．６．１章参照
+ Welcome to SvNaConsole.
svna> set us admin xxxxxxxx                 → パスワード変更コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．２章参照
svna> set if auto off                       → ネットワークインターフェース設定の反映タイミング
+ Command succeeded.                           変更コマンドの詳細は３．６．６章参照
svna> set ns nameserver 10.1.2.6 10.1.2.7   → DNSサーバアドレス設定コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．９章参照
svna> set ns domain isnq30.dom              → DNSドメイン設定コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．１０章参照
svna> list if                               →ネットワークインターフェース確認コマンドの詳細は
= Command succeeded.                           ３．６．３章参照
eth0    inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:172.16.171.255
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
eth0.100        inet addr:192.168.10.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
        Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.10.255
        Default Gateway:192.168.10.254      →不要なVLANインターフェースが設定されて
        UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST        いる場合、削除してください
+ Done.
svna> remove vlan eth0.100                  →VLANインターフェース削除コマンドの詳細は
+ Command Succeeded.                           ３．６．２１章参照
svna> add vlan eth0 111                     → VLANインターフェース追加コマンドの
+ Command succeeded.                           詳細は３．６．２０章参照
svna> set if eth0.111 address 10.1.2.252 mask 255.255.255.0
+ Command succeeded.  → ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は３．６．７章参照
svna> set if eth0 address 127.0.0.1
+ Command succeeded.
svna> set gw 10.1.2.254                     → デフォルトゲートウェイ設定コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．２２章参照
svna> set na stop                           → エージェント停止コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．２５章参照
svna> set hn isnq30                         → エージェント名設定コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．１５章参照
svna> set sm 10.1.2.253                     → マネージャ設定コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                           ３．６．１４章参照
svna> reboot                                → 再起動コマンドの詳細は３．６．１３章
 + Command succeeded.                          参照
```

３．コマンドラインインターフェース

３．１　コマンドラインインターフェース概要

NQでは、コマンドラインインターフェースによって、NQの設定を参照／変更することができます。コマンドラインインターフェースは、telnetを利用したネットワーク接続を介してNQにアクセスすることで使用可能です。なお、NQの設定を参照／変更する場合、認証コマンド（３．６．１章参照）を使用して各コマンドを実行可能な状態に遷移させる必要があります。

３．２　telnetによるネットワーク接続

telnetを介したNQへのネットワーク接続方法を以下に説明します。

［書式］

```
telnet <host>  23496
```

［説明］

NQの23496番ポートへtelnetを介してネットワーク接続を行います。なお、使用ポートを変更することはできません。コマンドは、全て半角英数字で入力してください。
Tera Termを使用する場合、[File]→[New connection]を選択し、以下の設定を行ってください。

通信種別　：　TCP/IP
Host　　　：　NQのIPアドレス、またはホスト名
Service　：　Telnet
TCP Port#：　23496

その他のターミナルソフトを使用する場合は、上記の内容を参考に接続先を指定してください。

［引数］

引数	説明
<host>	NQのIPアドレスまたはホスト名

［実行例］

```
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna>
```

［注意］

telnetを介したNQへのネットワーク接続後、画面上にメッセージが出力されない、入力文字が表示されない、Enterキー入力による実行ができない場合の対処方法は、６．１章を参照してください。

３．３　認証前のネットワーク接続終了方法

［書式］

```
exit
```

［説明］

telnet を介して NQ へネットワーク接続した際に、認証コマンド（３．６．１章参照）実行前に接続を終了する場合は、以下のコマンドを実行してください。
なお、終了コマンド（３．６．１２章参照）とは異なり、quit コマンドは使用できません。

［実行例］

```
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna> exit
+ Goodbye.

ホストとの接続が切断されました。
C:¥>
```

ネットワーク接続を行う

ネットワーク接続を終了する

３．４　コマンド一覧

NQ でサポートするコマンドの一覧を以下に示します。本書で説明されていないコマンドはサポート対象外です。

説明	コマンド	参照
認証コマンド	pass	3.6.1 章
認証パスワード変更コマンド	set us	3.6.2 章
ネットワークインターフェース確認コマンド	list if	3.6.3 章
DNS ネームサーバ、ドメイン名確認コマンド	list ns	3.6.4 章
エージェント設定確認コマンド	list na	3.6.5 章
ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンド	set if auto	3.6.6 章
ネットワークインターフェース設定コマンド	set if	3.6.7 章
エージェント設定コマンド	set na	3.6.8 章
DNS サーバアドレス設定コマンド	set ns nameserver	3.6.9 章
DNS ドメイン設定コマンド	set ns domain	3.6.10 章
ヘルプコマンド	help	3.6.11 章
終了コマンド	exit quit	3.6.12 章
再起動コマンド	reboot set na reboot	3.6.13 章
マネージャ設定コマンド	set sm	3.6.14 章
エージェント名設定コマンド	set hn	3.6.15 章
初期化コマンド	init all	3.6.16 章
シャットダウンコマンド	shutdown set na shutdown	3.6.17 章
ネットワークインターフェースのネゴシエーション設定確認コマンド	list ifspeed	3.6.18 章
ネットワークインターフェースのネゴシエーション設定変更コマンド	set ifspeed	3.6.19 章
VLAN インターフェース追加コマンド	add vlan eth0	3.6.20 章
VLAN インターフェース削除コマンド	remove vlan	3.6.21 章
デフォルトゲートウェイ設定コマンド	set gw	3.6.22 章
DNS サーバアドレス削除コマンド	remove ns nameserver	3.6.23 章
エージェント開始コマンド	set na start	3.6.24 章
エージェント停止コマンド	set na stop	3.6.25 章

３．５　コマンド入力時の注意・制限事項

- コマンド入力は、半角文字を使用してください。全角文字は認識できません。
- 入力文字が表示されない、Enter キー入力による実行ができない場合の対処方法は、６．１章を参照してください。
- 使用する telnet クライアント PC によっては、コマンド入力時に、[back space]、[delete]、方向キー等による入力文字の編集ができない場合があります。
- コマンド実行時に表示されるメッセージから、成功、およびエラーを確認してください。下記に主な表示メッセージを示します。

メッセージ	内容
Welcome to SvNaConsole.	認証成功
Goodbye.	telnet を介したネットワーク接続終了
Invalid command.	コマンド実行エラー（コマンド入力ミスなど）
Command succeeded.	コマンド実行成功
400 require authentication.	telnet を介したネットワーク接続成功
403 bad pass phrase.	認証エラー
404 maximum retries.	認証パスワード入力 3 回失敗時の接続切断通知
500 generic error.	一般エラー
501 system error	システムエラー
502 no data.	データ（情報詳細）なし
503 invalid data.	不正なデータが設定
504 no record.	設定項目が見つからない

３．６　コマンドリファレンス

３．６．１　認証コマンド（pass）

［書式］

```
pass <password>
```

［説明］

認証コマンドを使用してログインすることで、NQ に対して全てのコマンドを実行可能な状態へ遷移します。telnet を介したネットワーク接続後は、本コマンドによって認証しなければ以降に説明する設定コマンドを実行できません。

<password> には認証パスワードを入力してください。工場出荷時の認証パスワードの既定値は admin です。

なお、認証パスワードはセキュリティ対策として既定値から変更することを推奨します。認証パスワードの変更方法は３．６．２章を参照してください。

［引数］

引数	説明
<password>	認証パスワード

［実行例］

```
svna> pass admin
+ Welcome to SvNaConsole.
svna>
```

［注意］

設定とは異なる認証パスワードを入力してコマンドを実行した場合、認証エラーが合計 3 回に達した時点で NQ へのネットワーク接続が切断されます。認証パスワードを入力せず、pass コマンドのみでコマンドを実行した場合は、認証エラーのメッセージが表示されますが、認証エラーとしてカウントされません。

３．６．２　認証パスワード変更コマンド（set us）

［書式］

```
set us <user> <password>
```

［説明］

認証パスワードを変更します。現バージョンでは、*<user>* には必ず admin を指定してください。

［引数］

引数	説明
<user>	ユーザ名。現バージョンでは admin 固定です。
<password>	設定変更後に使用する認証パスワード。 パスワードに登録可能な文字は、1 文字以上 8 文字以下の半角英数字、および半角記号からなる文字列です。8 文字より長い場合は、以降の文字列は認識されません。半角英字は大文字、小文字が区別されます。

［実行例］

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを『abcxyz』に変更する

認証パスワードは、変更した文字列が正しく設定されたことを確認する必要があります。以降の［注意］、［確認手順］を参照し、確実に設定を行ってください。

［注意］

通常は、半角スペースを認証パスワードの文字列として認識しません。下記の場合、半角スペース以前の文字列を認証パスワードとして登録します。

```
svna> set us admin pass wd
```

『pass』が認証パスワードとなる

認証パスワードに半角スペースを含める場合、ダブルクォート（”）を使用して設定してください。以下のようにダブルクォートで囲むことで、認証パスワードとして設定することができます。

svna> set us admin ”pass wd”	『pass wd』が認証パスワードとなる

半角スペースを含む認証パスワードを設定した場合、認証コマンド（３．６．１章参照）を実行する際は、変更コマンドと同様にダブルクォートで囲んで指定してください。

svna> pass ”pass wd”	認証パスワードが『pass wd』の場合

ダブルクォートを使用する場合、文字列の先頭にダブルクォートがあれば、次にダブルクォートを設定する位置までを認証パスワードと見なします。

svna> set us admin ”pass”wd”	『pass』が認証パスワードとなる

ダブルクォートを使用した場合も、1 文字以上 8 文字以下の半角英数字、および半角記号のみ登録できます。8 文字より長い場合、以降の文字列は認識されません。

svna> set us admin ”passwd12345”	『passwd12』が認証パスワードとなる

ダブルクォートが文字列の先頭に設定されているが、以降の文字列にダブルクォートが含まれていない場合、あるいは文字列の先頭以降にダブルクォートが設定されている場合は、ダブルクォートを認証パスワードの文字列の一部として設定します。

svna> set us admin ”passwd	『”passwd』が認証パスワードとなる
svna> set us admin pass”wd”	『pass”wd”』が認証パスワードとなる

[確認手順]

コマンド入力時に[back space]、[delete]、方向キー等による入力文字の編集ができない telnet クライアント PC を使用する場合、認証パスワード入力時に方向キーなどを押下すると、画面上に反映されなくても文字列として認識してしまうことがあります。

そのため、認証パスワードの変更時は、以下の手順で正常にログインできることを確認することを推奨します。手順は、コマンドプロンプトを使用した場合となります。

① 認証パスワードを変更する

telnet を介したネットワーク接続を行い、認証コマンドでログインした後、認証パスワード変更コマンドを使用して認証パスワードを変更してください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを変更する

② 新たにネットワーク接続を行う

①で接続中のコマンドプロンプトのネットワーク接続を終了させず、新たにコマンドプロンプトを起動させ、NQ へネットワーク接続を行ってください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
C:¥> telnet 192.168.250.250 23496
- 400 require authentication
svna>
```

別のコマンドプロンプトから接続する

③ 新規接続から認証コマンドを実行する

②で NQ へ接続したコマンドプロンプトから認証コマンドを使用して、①で設定したパスワードでログイン可能か確認してください。パスワードが異なる場合は、認証エラーとなります。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
- 400 require authentication
svna> pass abc
- 403 bad pass phrase.
```

認証コマンドでログインできない場合

パスワードが正しい場合、正常にログインできます。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
svna> pass abcxyz
+ Welcome to SvNaConsole.
svna>
```

認証コマンドでログインできた場合

④ 新規接続から認証コマンドでログインできない場合

①で設定したパスワードを使用しても正常にログインできない場合、変更コマンド使用時に方向キー押下などによる不正な文字列が含まれた可能性があります。①でログイン中のコマンドプロンプトより、認証パスワードを再設定し、③の確認手順を行ってください。

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

```
svna> pass abcxyz
- 403 bad pass phrase.
svna>
```

認証エラーとなった場合

↓

```
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna> set us admin abcxyz
+ Command succeeded.
svna>
```

認証パスワードを再設定する

```
svna> pass abcxyz
- 403 bad pass phrase.
svna>
```

３．６．３　ネットワークインターフェース確認コマンド（list if）

[書式]

```
list if
```

[説明]

ネットワークインターフェースの設定状態を表示します。

[実行例]

■非タグ VLAN 環境設置時の実行例

```
svna> list if
= Command succeeded.
eth0     inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.250.255
         Default Gateway:192.168.250.1
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna>
```

■タグ VLAN 環境設置時の実行例

```
svna> list if
= Command succeeded.
eth0     inet addr:127.0.0.1 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:127.0.0.255
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
eth0.111         inet addr:192.168.10.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.10.255
         Default Gateway:192.168.10.254
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
eth0.112         inet addr:192.168.20.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.20.255
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna>
```

［表示項目］

項目	説明
inet addr	IP アドレス
HWaddr	MAC アドレス
Mask	ネットワークマスク（サブネットマスク）
Bcast	ブロードキャストアドレス
Default Gateway	デフォルトゲートウェイ

３．６．４　DNS サーバ、ドメイン名確認コマンド（list ns）

[書式]

```
list ns
```

[説明]

DNS サーバの IP アドレス、ドメイン名を表示します。

[実行例]

```
svna> list ns
= Command succeeded.
nameserver 192.168.0.6
nameserver 192.168.0.7
domain isnq.dom
+ Done.
svna>
```

[表示項目]

項目	説明
nameserver	DNS サーバの IP アドレス
domain	NQ が属するドメイン名

３．６．５　エージェント設定確認コマンド（list na）

［書式］

```
list na
```

［説明］

エージェント設定を表示します。確認可能な項目については、４章を参照してください。

［実行例］

```
svna> list na
= Command succeeded.
ManagerIpAddress: 192.168.250.251
…
+ Done.
svna>
```

３．６．６　ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンド（set if auto）

［書式］

```
set if auto { on | off }
```

［説明］

ネットワークインターフェース設定コマンド（３．６．７章参照）を実行した時に、設定内容が反映されるタイミングを変更します。設定が有効（*on* ）の場合、ネットワークインターフェース設定コマンドによる設定内容は、コマンド実行直後に反映されます。設定が無効（*off* ）の場合は、NQ の再起動時に反映されます。初期状態では有効が設定されています。

本設定が有効の場合、ネットワークインターフェース設定コマンドを使用して IP アドレスなどを変更すると、コマンド実行直後に反映され、NQ へのネットワーク接続が切断されることがありますのでご注意ください。

［実行例］

```
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．７　ネットワークインターフェース設定コマンド（set if）

[書式]

set if *<nic>* [address *<address>*] [mask *<mask>*]

[説明]

ネットワークインターフェース設定を行います。set if、または set if *<nic>* のみを実行した場合は、エラーとなります。

[引数]

引数	説明
<nic>	設定対象のインターフェース。 非タグ VLAN 環境設置時は eth0 を指定してください。 VLANインターフェース設定時は eth0.*<vid>* (※) を指定してください。また、eth0 に“127.0.0.1”を指定してください。 (※) *<vid>* は VLAN 設定インターフェース追加コマンド（３．６．２０章参照）で指定した VLAN ID
<address>	インターフェースに設定する IP アドレス
<mask>	インターフェースに設定するネットワークマスク

[実行例]

■非タグ VLAN 環境設置時

```
svna> set if auto off
+ Command succeeded.
svna> set if eth0 address 192.168.250.250 mask 255.255.255.0
+ Command succeeded.
svna> reboot
+ Command succeeded.
```

→ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドの詳細は３．６．６章参照

→ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は本章参照

→ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドを無効に設定した場合は再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります

■タグ VLAN 環境設置時

```
svna> set if auto off          →ネットワークインターフェース設定の反映
                                 タイミング変更コマンドの詳細は３．６．６章参照
+ Command succeeded.

svna> add vlan eth0 111        →VLAN インターフェース追加コマンドの詳細は
                                 ３．６．２０章参照
+ Command succeeded.

svna> set if eth0 address 127.0.0.1
                                →ネットワークインターフェース設定コマンドの
+ Command succeeded.              詳細は本章参照

svna> set if eth0.111 address 211.10.10.200 mask 255.255.255.0

+ Command succeeded.

svna> reboot                   →VLAN インターフェースの設定を反映させるには、
                                 再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります
+ Command succeeded.
```

［注意］

NQ をタグ VLAN 環境に設置する場合、VLAN インターフェース追加コマンド（３．６．２０章参照）を実行後、VLAN インターフェースに指定した VLAN ID を使用して本コマンドを実行してください。また、eth0 の設定値を“127.0.0.1”に変更してください。

本コマンドで IP アドレス変更後、NQ の再起動を実施した場合、エージェント設定（４章参照）の IpAddress、CollectIpAddress、NetworkAddress、NetworkMask の属性値は、自動的に本コマンドの設定値(タグ VLAN 環境の設定時は、SiteManager と通信する VLAN インターフェースの設定値）が反映されます。

なお、ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンド（３．６．６章参照）が有効の場合、本コマンド実行直後に IP アドレスなどの変更が反映され、NQ へのネットワーク接続が切断されることがあります。ネットワークインターフェース設定の反映タイミング変更コマンドを無効に設定し、全ての設定を変更後、NQ を再起動させる手順を強く推奨します。

３．６．８　エージェント設定コマンド（set na）

［書式］

```
set na <attribute> <value>
```

［説明］

エージェントの属性を設定します。設定可能な項目は４章を参照してください。

［引数］

引数	説明
<attribute>	設定項目
<value>	設定する値

［実行例］

```
svna> set na stop
+ Command succeeded.
svna> set na IpAddress 192.168.250.250
+ Command succeeded.
svna> set na restart
+ Command succeeded.
```

→エージェント停止コマンドの詳細は３．６．２５章参照

→エージェント開始コマンドの詳細は３．６．２４章参照

［注意］

本コマンドを使用する前に、エージェント停止コマンド（３．６．２５章参照）を使用してエージェントサービスを停止してください。
本コマンドを使用してエージェント属性を変更した場合、設定内容を反映させるため、エージェント開始コマンド（３．６．２４章参照）、あるいは再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。（※）
但し、エージェント設定（４章参照）の IpAddress、CollectIpAddress、NetworkAddress、NetworkMask の属性値は、エージェントサービス起動時に自動的にネットワークインターフェース設定から取得した値が反映されます。

（※）VLAN インターフェースの追加など、設定内容の反映に NQ の再起動が必要となる操作を併せて実施している場合は、必ず再起動を行ってください。

３．６．９　DNS サーバアドレス設定コマンド（set ns nameserver）

[書式]

```
set ns nameserver <server1> [<server2>...]
```

[説明]

DNS サーバの設定を行います。DNS サーバの設定を行った場合、収集したホストの IP アドレスから DNS 名の逆引きが可能となり、取得した DNS 名を SiteManager へ通知することができます。

[引数]

引数	説明
<server1>...	DNS サーバの IP アドレス。最大 3 個まで設定可能。複数の DNS サーバアドレスを設定する場合は、引数の間に半角スペースを入れてください。

[実行例]

```
svna> set ns nameserver 192.168.250.6 192.168.250.7
+ Command succeeded.
svna>
```

３．６．１０　DNS ドメイン設定コマンド（set ns domain）

[書式]

```
set ns domain <domain1> [<domain2>...]
```

[説明]

DNS ドメインの設定を行います。

[引数]

引数	説明
<domain1>...	DNS のドメイン名。複数のドメイン名を設定する場合は、引数の間に半角スペースを入れてください。 ドメイン名を削除したい場合は、ダブルクォート（”）を使用して以下のように入力してください。 svna> set ns domain ””

[実行例]

```
svna> set ns domain isnq.dom
+ Command succeeded.
svna>
```

[注意]

本コマンドは、パラメータに設定可能な文字数は 2000 文字です。文字数制限には、複数設定時に引数の間に設定する半角スペースも含まれますのでご注意ください。

３．６．１１　ヘルプコマンド（help）

[書式]

```
help [<command>]
```

[説明]

コマンドのヘルプ情報を表示します。help のみを実行した場合はコマンド一覧を表示します。help で表示されるコマンドであっても、本書で説明されていないコマンドの使用はサポート対象外となりますのでご注意ください。

[引数]

引数	説明
<command>	使用方法を確認したいコマンド名

[実行例]

```
svna> help set
= Usage of set command:
set if <nic> [address <address>] [mask <mask>] [gateway <gateway>]
set if <nic> [on|off]
set na <attribute> <value>
set na [start|stop|restart|reboot]
set us <user> <password>
+ Done.
svna>
```

３．６．１２　終了コマンド（exit, quit）

［書式］

```
exit
または
quit
```

［説明］

telnet を介したネットワーク接続を終了します。認証コマンド（３．６．１章参照）による認証後は、exit コマンドと quit コマンドに動作の差異はありません。

［実行例］

```
svna> exit
+ Goodbye.



ホストとの接続が切断されました。
```

３．６．１３　再起動コマンド（reboot, set na reboot）

［書式］

```
reboot
または
set na reboot
```

［説明］

NQ を再起動します。reboot コマンドと set na reboot コマンドに動作の差異はありません。

［実行例］

```
svna> reboot
```

３．６．１４　マネージャ設定コマンド（set sm）

［書式］

```
set sm <address>
```

［説明］

SiteManager をインストールしている PC の IP アドレスを設定します。

［引数］

引数	説明
<address>	NQ の管理／操作を行う SiteManager インストール PC の IP アドレスを設定します。ホスト名で設定することはできません。

［実行例］

```
svna> set na stop                      →エージェント停止コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                     ３．６．２５章参照
svna> set sm 192.168.250.251
+ Command succeeded.
svna> set na restart                   →エージェント開始コマンドの詳細は
+ Command succeeded.                     ３．６．２４章参照
```

［注意］

本コマンドを使用する前に、エージェント停止コマンド（３．６．２５章参照）を使用してエージェントサービスを停止してください。
本コマンドを使用してSiteManagerインストールPCのIPアドレスを変更した場合、設定内容を反映させるため、エージェント開始コマンド（３．６．２４章参照）、あるいは再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。（※）

（※） VLAN インターフェースの追加など、設定内容の反映に NQ の再起動が必要となる操作を併せて実施している場合は、必ず再起動を行ってください。

３．６．１５　エージェント名設定コマンド（set hn）

[書式]

```
set hn <agentname>
```

[説明]

エージェント名を設定します。

[引数]

引数	説明
<agentname>	サイトコンソールに表示するエージェント名を設定します。

[実行例]

```
svna> set na stop
+ Command succeeded.
svna> set hn isnq30
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
svna> reboot
+ Command succeeded.
```

→エージェント停止コマンドの詳細は３．６．２５章参照

→ 再起動コマンドの詳細は３．６．１３章参照

[注意]

<agentname> へ登録可能な文字は、半角英数字、ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)、小括弧((,))からなる1バイト以上32バイト以下の文字列で、大文字、小文字は区別されません。また、以下に該当する文字列を設定した場合は、SiteManagerに登録することができません。

- ●Windows 予約デバイス名(AUX、CON、NUL、PRN、CLOCK$、COM0～COM9、LPT0～LPT9)
- ●エージェント名の先頭、あるいは末尾がドット(.)である
- ●2バイト文字(全角文字)を含む
- ●エージェント名の文字長が32バイトを超える

本コマンドを使用する前に、エージェント停止コマンド（３．６．２５章参照）を使

用してエージェントサービスを停止してください。
また、本コマンドを使用してエージェント名を設定した場合は、NQの再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

３．６．１６　初期化コマンド（init all）

［書式］

```
init all
```

［説明］

エージェントのネットワーク設定を工場出荷時の値（既定値）に戻します。ただし、現在は制限事項（５章参照）があります。工場出荷時の値については４章を参照してください。

［実行例］

```
svna> set na stop
+ Command succeeded.
svna> init all
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
+ Command succeeded.
svna> reboot
+ Command succeeded.
```

→エージェント停止コマンドの詳細は３．６．２５章参照

→再起動コマンドの詳細は３．６．１３章参照

［注意］

本コマンドを使用する前に、エージェント停止コマンド（３．６．２５章参照）を使用してエージェントサービスを停止してください。

本コマンドを使用して工場出荷時に戻した場合は、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

３．６．１７　シャットダウンコマンド（shutdown、set na shutdown）

［書式］

```
shutdown
または
set na shutdown
```

［説明］

NQ を停止させます。shutdown コマンドと set na shutdown コマンドに動作の差異はありません。NQ 停止後、再度起動させる場合は電源ケーブルの抜き差しを行ってください。NQ30a の場合は、電源スイッチ押下でも起動可能です。

［実行例］

```
svna> shutdown
```

３．６．１８　ネットワークインターフェースのネゴシエーション設定確認コマンド（list ifspeed）

［書式］

```
list ifspeed
```

［説明］

NQのネットワークインターフェースのネゴシエーション設定を表示します。

［実行例］

```
svna> list ifspeed
eth0: no autonegotiation, 10baseT-HD, link ok
+ Command Succeeded.
svna>
```

３．６．１９　ネットワークインターフェースのネゴシエーション設定変更コマンド（set ifspeed）

［書式］

```
set ifspeed { auto | 100FD  | 100HD  | 10FD  | 10HD }
```

［説明］

NQ のネットワークインターフェースのネゴシエーション設定を変更します。

［引数］

引数	説明
auto	オートネゴシエーションを設定します。工場出荷時は、既定値としてオートネゴシエーションが設定されています。 本引数が指定された場合、オートネゴシエーションのリスタートが実行されます。
100FD	100baseTx-FD を設定します。
100HD	100baseTx-HD を設定します。
10FD	10baseT-FD を設定します。
10HD	10baseT-HD を設定します。

［実行例］

```
svna> set ifspeed auto
resetting the transceiver...
+ Command Succeeded.
svna>
```

［注意］

ネットワークインターフェースのネゴシエーション設定を変更する場合、接続ポートと異なる設定を実施すると、正常に接続できなくなる可能性があります。変更時は、接続先の設定を確認の上実施してください。

なお、NQ のネットワークインターフェースのネゴシエーション設定は、NQ の再起動によって既定値に戻ります。

３．６．２０　VLANインターフェース追加コマンド（add vlan eth0）

［書式］

```
add vlan eth0 <vid>
```

［説明］

NQのVLANインターフェースを追加します。NQにVLAN IDを割り当てたVLANインターフェースを作成することで、該当の VLAN ID のタグ付きパケットを収集することができます。

［引数］

引数	説明
<*vid*>	VLAN IDを設定します。VLANインターフェースは、設定されたVLAN IDによって作成されます。 VLAN IDは、0 ～ 4094の値が設定可能です。

［実行例］

```
svna> add vlan eth0 111
+ Command Succeeded.
svna> set if eth0.111 address 211.10.10.200 mask 255.255.255.0
+ Command Succeeded.          →ネットワークインターフェース設定コマンドの詳細は
                                ３．６．７章参照
svna>
svna> add vlan eth0 111       →登録済みのVLAN IDを追加した場合はエラーとなります
 vlan interface already exist
+ Command failed.
svna> reboot                  →VLANインターフェースの設定を反映させるには、
+ Command succeeded.            再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります
```

［注意］

追加するVLAN IDが既にNQに登録済みの場合、エラーメッセージが表示され、登録することができません。

なお、本コマンドを実行後、設定を反映させるには、NQの再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

３．６．２１　VLAN インターフェース削除コマンド（remove vlan）

［書式］

```
remove vlan <nic>
```

［説明］

NQ の VLAN インターフェースを削除します。

［引数］

引数	説明
<nic>	NQのVLANインターフェース eth0.*<vid>* (※) を設定 (※) *<vid>* は VLAN インターフェース追加コマンド（３．６．２０章参照）で指定した VLAN ID

［実行例］

```
svna> list if                      →ネットワークインターフェース確認コマンドの詳細は
= Command succeeded.                 ３．６．３章参照
eth0     inet addr:127.0.0.1 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.0.0.0  Bcast:127.255.255.255
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
eth0.111         inet addr:192.168.10.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.10.255
         Default Gateway:192.168.10.254    →不要な VLAN インターフェースが設定
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST     されている場合、削除してください
+ Done.
svna> remove vlan eth0.111
+ Command Succeeded.
svna> reboot                      →VLAN インターフェースの設定を反映させるには、
+ Command succeeded.                再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります
```

［注意］

本コマンドを実行後、設定を反映させるには、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

３．６．２２　デフォルトゲートウェイ設定コマンド（set gw）

［書式］

```
set gw 〈gateway〉
```

［説明］

デフォルトゲートウェイを設定します。

［引数］

引数	説明
〈gateway〉	デフォルトゲートウェイを設定

［実行例］

```
svna> set gw 10.1.2.254
+ Command Succeeded.
svna> reboot
+ Command succeeded.
```

→デフォルトゲートウェイの設定を反映させるには、
　再起動コマンド（３．６．１３章参照）が必須となります

［注意］

本コマンドを実行後、設定を反映させるには、NQ の再起動が必要となります。全ての設定を登録後、再起動コマンド（３．６．１３章参照）を実行してください。

なお、デフォルトゲートウェイの設定を削除する場合、デフォルトゲートウェイのアドレスを“0.0.0.0”と設定し、本コマンドを実行してください。

３．６．２３　DNS サーバアドレス削除コマンド（remove ns nameserver）

［書式］

```
remove ns nameserver <server1> [<server2>...]
```

［説明］

DNS サーバの設定を削除します。

［引数］

引数	説明
<server1>...	DNS サーバの IP アドレス。最大 3 個まで設定可能。複数の DNS サーバアドレスを設定する場合は、引数の間に半角スペースを入れてください。

［実行例］

```
svna> list ns
= Command succeeded.
nameserver 192.168.0.6
nameserver 192.168.0.7
domain isnq.dom
+ Done.
svna> remove ns nameserver 192.168.0.6 192.168.0.7
+ Command succeeded.
svna> list ns
= Command succeeded.
domain isnq.dom
+ Done.
svna>
```

→DNS サーバ、ドメイン名確認コマンドの詳細は
３．６．４章参照

→DNS サーバアドレス削除コマンドによって
設定値が削除される

３．６．２４　エージェント開始コマンド（set na start）

［書式］

```
set na start
```

［説明］

エージェントサービスを開始します。

［実行例］

```
svna> set na start
+ Command succeeded.
svna> set na start
-501 サービスはすでに開始しています。
svna>
```

→エージェントサービスを多重起動させることはできません。

［注意］

エージェントサービスは、NQ 起動時に開始されます。本コマンドは、エージェント停止コマンド（３．６．２５章参照）を使用してエージェントサービスを停止した時に使用してください。

３．６．２５　エージェント停止コマンド（set na stop）

［書式］

```
set na stop
```

［説明］

エージェントサービスを停止します。

［実行例］

```
svna> set na stop
+ Command succeeded.
svna> set na stop
-501 サービスはすでに停止しています。
svna>
```

→エージェントサービスが停止していれば
エラーとなります。

［注意］

エージェントサービスは、NQ 起動から 1 分以内、あるいはエージェント開始コマンド（３．６．２４章参照）実行から 30 秒以内は正常に停止できない場合があります。
本コマンドは、前述の時間を目安として一定時間経過後、使用してください。

４．エージェント設定の詳細

エージェント設定の確認／設定項目に関して説明します。

※ エージェント設定の確認は、エージェント設定確認コマンド（３．６．５章）を参照してください。

※ エージェント設定の設定は、エージェント設定コマンド（３．６．８章）を参照してください。

［設定項目］

エージェントの設定で確認可能／設定可能な主な項目一覧を以下に示します。なお、以下に説明している項目以外はサポート対象外です。

属性項目名 [attribute]	説明	既定値 [value]
IpAddress	NQ が使用する IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。(xxx は 10 進数) 但し、NQ の再起動を行った場合、自動的に SiteManager と通信を行う IP アドレスに変更されます。	192.168.250.250
CollectIpAddress	NQ の収集用 IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。(xxx は 10 進数) なお、属性項目“IpAddress”と同じ値を設定してください。 但し、NQ の再起動を行った場合、自動的に SiteManager と通信を行う IP アドレスに変更されます。	192.168.250.250
Port	NQ の受信ポート番号。 属性値は、1～65535 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。 但し、ネットワーク接続で使用する 23496/TCP 番ポートは設定しないでください。	23491

属性項目名 [attribute]	説明	既定値 [value]
NetworkAddress	NQ を設置するネットワークのネットワークアドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。(xxx は 10 進数) 但し、NQ の再起動を行った場合、自動的に SiteManager と通信を行う IP アドレスの属するネットワークアドレスに変更されます。	192.168.250.0
NetworkMask	NQ を設置するネットワークのネットワークマスク（サブネットマスク）。 属性値は、8～30 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。 但し、NQ の再起動を行った場合、自動的に SiteManager と通信を行う IP アドレスの属するネットワークマスクに変更されます。	24
ManagerIpAddress	SiteManager インストール PC の IP アドレス。 属性値は、xxx.xxx.xxx.xxx の形式で設定してください。(xxx は 10 進数) マネージャ設定コマンド（３．６．１４章）でも設定可能です。	192.168.250.251
ManagerPort	SiteManager の受信ポート番号。 属性値は、1～65535 の範囲内の数値を 10 進数で設定してください。 但し、設定値が SiteManager に設定されている受信ポート番号と異なる場合は、SiteManager と通信できなくなりますのでご注意ください。	23490

属性項目名 [attribute]	説明	既定値 [value]
CollectOfPacket	NQ のデータ収集状態。 設定を変更する場合、以下の値を設定します。設定値は、大文字、小文字を区別しません。 　データ収集開始： On 　データ収集停止： Off なお、NQ を SiteManager へ新規登録した場合は、サイトコンソール、あるいは集中管理画面より収集開始を行わなければ SiteManager と正常に通信ができません。新規登録時は本コマンドから設定変更しないでください。	Off
NotifyInterval	NQ のデータ収集時に、収集したホスト情報を SiteManager へ通知する間隔。 通知間隔は、秒単位で 30～3600 の範囲の数値を 10 進数で設定してください。	60
JamStatus	NQ の不正接続防止の設定状態。 設定を変更する場合は、以下の値を設定します。設定値は、大文字、小文字を区別しません。 　不正接続防止機能有効時： On 　不正接続防止機能無効時： Off 通常はサイトコンソール、あるいは集中管理画面より設定を行う属性のため、本コマンドを使用して値を変更しないでください。	Off
OsDetect	OS デテクト機能の有効／無効設定 設定を変更する場合は、以下の値を 10 進数で設定します。 　OS デテクト有効： 1 　OS デテクト無効： 0	1

属性項目名 [attribute]	説明	既定値 [value]
DontNotifyMacOnlyEntry	MAC アドレスしか収集されていないホスト情報の通知／非通知設定。 本属性は、NQ が MAC アドレスのみのホスト情報を収集した場合に SiteManager へ通知するかを設定します。非通知に設定した場合は、SiteManager へ通知されません。 なお、不正接続防止機能は IP アドレスが解決できていない場合は不正接続防止パケットを流すことができないため、MAC アドレスのみのパケットを流す機器が防止されることはありません。 設定を変更する場合は、以下の値を 10 進数で設定します。 非通知： 1 通知　： 0	0
TimeOut	NQ の通信処理時のタイムアウト時間。 秒単位で 10～360 の範囲の数値を 10 進数で設定してください。 通常は 20 秒（既定値）で問題ありませんが、SiteManager-NQ 間の通信速度が遅い場合や、SiteManager インストール PC のマシンスペックが低い場合は、本属性の設定値を大きくすることで通信エラーが改善されることがあります。	20

５．制限事項

・ NQ30a の初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30a が自動起動しない場合は、電源スイッチを押下してください。機器を停止させる場合は、以下のいずれかを実行してください。

●シャットダウンコマンド（３．６．１７章参照）を実行する

●電源スイッチを 5 秒以上押し続ける

●電源ケーブルを抜く

・ NQ30b は、電源スイッチがありません。電源ケーブルの接続により、自動起動します。機器を停止させる場合は、以下のいずれかを実行してください。

●シャットダウンコマンド（３．６．１７章参照）を実行する

●電源ケーブルを抜く

・ 初期化コマンド（３．６．１６章参照）では一部のネットワーク設定が工場出荷状態に戻りません。全てのネットワーク設定を変更する場合、下記の項目を参照し、設定値の変更を行ってください。

項目	使用コマンド	参照	初期設定値
認証パスワード	set us	３．６．２章	admin
DNS サーバアドレス	remove ns nameserver	３．６．２３章	なし
DNS ドメイン名	set ns domain	３．６．１０章	isnq.dom
VLAN インターフェース	remove vlan	３．６．２１章	なし

・ NQ では、NetBEUI プロトコルのパケットを解析できません。そのため、SiteManager のホスト一覧上で、NetBEUI フラグのチェックがつきません。また、NetBEUI しか利用しない端末の検知、防止ができません。

６．トラブルシューティング

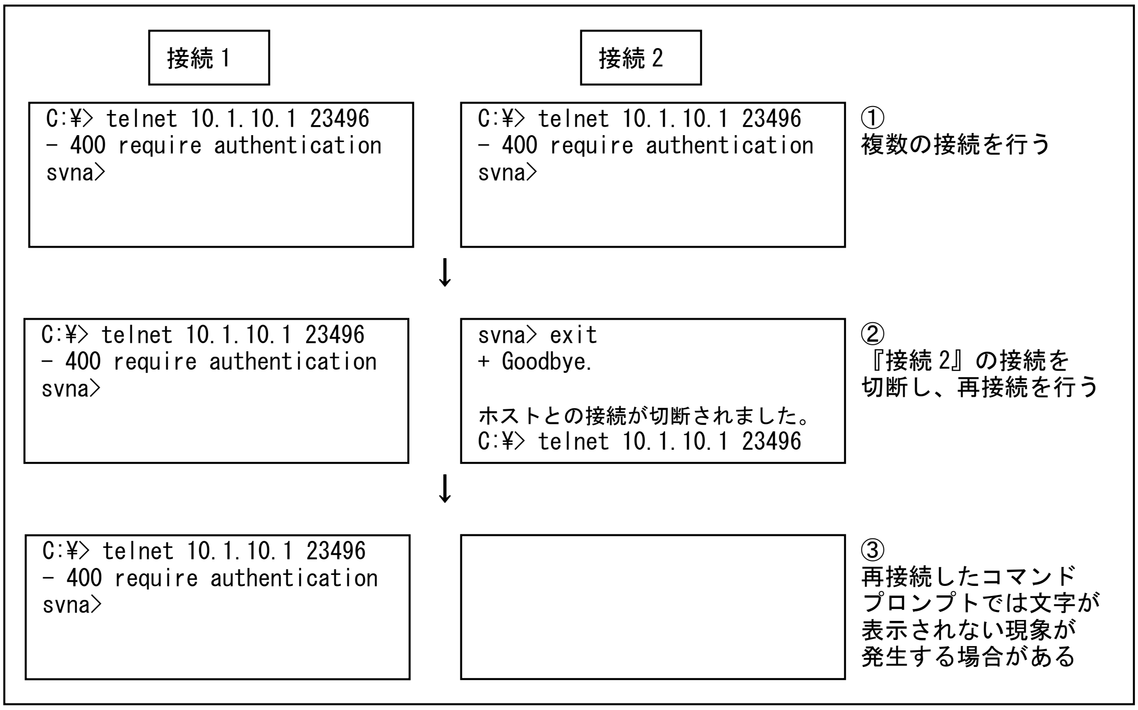
６．１　NQ へのネットワーク接続時に文字が正常に表示されない

telnet を介して NQ に接続した時に、出力文字が正常に表示されない、入力文字が表示できない場合、以下を確認してください。

■同一の NQ に対して複数のネットワーク接続を行っている場合

同一の NQ に対して複数のネットワーク接続を行っている時に、一部の接続を切断すると、切断処理が正常に終了できない場合があります。切断処理が正常に終了できない場合に、再び同一 NQ へのネットワーク接続を行っても、正常に表示されなくなることがあります。

以下に、コマンドプロンプト使用時に現象が発生した場合の一例を示します。



『接続 2』のネットワーク接続を切断後、再接続させるため telnet コマンドを実行します（上記②を参照）。しかし、telnet コマンド実行後、『接続 2』にメッセージなどが一切出力されず、文字入力を行っても表示されなくなることがあります（上記③を参照）。

上記の例は、同一のコマンドプロンプトを使用した場合となりますが、本現象は『接続 2』のネットワーク接続を切断後、新規にコマンドプロンプトを起動させ、『接続 3』

としてNQへ接続しても発生する場合があります。

本現象は、同一NQに対する全てのネットワーク接続を切断後、再接続を行うことで解消できる場合があります。
上記の方法で解消できない場合は、全てのネットワーク接続を切断して一定時間経過後、再接続を行ってください。一定時間経過後も表示が正常に行われない場合は、NQの再起動を行ってください。

■NQに対して単一のネットワーク接続を行っている場合
NQに対して単一のネットワーク接続を行った際に文字が正常に表示されない場合、ターミナルソフトのローカルエコー設定、改行文字の変換設定が関与している可能性があります。以下は、コマンドプロンプト、およびTera Termでの設定方法となります。他のターミナルソフトを使用する場合は、Tera Termの設定方法を参照し、設定内容を確認してください。

◆ コマンドプロンプトの場合
コマンドプロンプトの場合、ローカルエコー設定が関与している可能性があります。以下の手順でtelnetクライアントPCの設定を確認／変更してください。

① コマンドプロンプトを起動し、telnetコマンドを入力します。

```
C:¥> telnet
Microsoft (R) Windows 2000 (TM) Version 5.00 (Build 2195)
Microsoft Telnet クライアントへようこそ
Telnet Client Build 5.00.99206.1

エスケープ文字は 'CTRL+]' です

Microsoft Telnet>
```

引数は設定しない

② displayコマンドを使用し、設定を確認します。

```
Microsoft Telnet> display
エスケープ文字は 'CTRL+]' です
自動認証 (NTLM 認証) を使う
ローカルエコーを使わない
CR と LF を送信します
使用する端末の種類をネゴシエートする

優先する端末の種類は ANSI です
Microsoft Telnet>
```

設定確認を行う

③ 入力文字が表示されていない場合は、ローカルエコーをオンにします。

```
Microsoft Telnet> set local_echo
Microsoft Telnet> display
エスケープ文字は 'CTRL+]' です
自動認証 (NTLM 認証) を使う
ローカルエコーを使う
CR と LF を送信します
使用する端末の種類をネゴシエートする

優先する端末の種類は ANSI です
Microsoft Telnet>
```

ローカルエコーを設定
設定確認を行う

※ 上記の設定を行った場合、PCの再起動後も設定が保存されています。
※ ローカルエコーの設定を戻す場合は、以下のコマンドを入力してください。

```
Microsoft Telnet> unset local_echo
```

④ telnetを終了します。

```
Microsoft Telnet> quit
```

◆ Tera Termの場合

Tera Termの場合、ローカルエコー設定、改行文字の変換設定が関与している可能性があります。以下の手順でtelnetクライアントPCの設定を確認／変更してください。

[Setup] → [Terminal]

Receive	: CR	受信改行文字の変換設定
Transmit	: CR+LF	送信改行文字の変換設定
Local echo	: ON	ローカルエコー設定
Kanji(receive)	: SJIS	受信文字コード設定
Kanji(transmit)	: SJIS	送信文字コード設定

６．２　USBメモリを使用したセットアップに失敗する

USBメモリを使用したセットアップを行ってもSiteManager-NQ間の通信が正常に行えない場合、NQがUSBメモリを認識できていない、あるいは設定ファイルに記載された認証パスワードが間違っている可能性があります。USB メモリの認識状態、および認証パスワードエラーを判断するには、以下を確認してください。

NQ起動時にUSB メモリを認識した場合は、USB メモリのルートフォルダに以下のファイルが作成されます。

［ファイル名］

svconflog.txt （全て半角小文字）

［ファイル内詳細］

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss JST: mount ok
```

［内容］

引数	説明
YYYY/MM/DD	svconflog.txtを作成した日付
hh:mm:ss	svconflog.txtを作成した時刻
JST:	日本時間であることを示す（固定）
mount ok	認識できたことを示す（固定）

［注意］

USBメモリ内に同一ファイル名があった場合は既存ファイルを削除し、新規作成します。

本ファイルが存在しない場合、もしくはファイル内の日付や時刻が古い場合、NQとUSBメモリの相性によって USB メモリが認識できていない可能性があります。２．２．１章のセットアップ手順を実行しても認識できない場合は、USBメモリを変更して実施してください。

また、USBメモリの設定ファイル読み込み時に認証パスワードに関するエラーが発生した場合、本ファイルに以下のエラーログを出力します。エラーログ出力時は、２．２．３章、２．２．４章を参照し、設定ファイルの確認を行ってください。

［認証パスワード未記入］

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss JST: no password
```

［認証パスワードによる認証失敗］

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss JST: password error
```

なお、本ファイルはUSBメモリの認識、および認証パスワードエラーのみ記述します。本ファイルの作成／更新によって、設定ファイルの反映が正常に行われたことを判断することはできませんのでご注意ください。

６．３　NQにネットワーク設定が正常に反映されたか確認できない

２章を参照してNQの設定を行った場合、SiteManagerインストールPCと正常に通信可能で、SiteManagerサービスが起動していれば、SiteManagerインストールPC上のサイトコンソールにエージェントアイコンが表示されます。
サイトコンソールに表示されない場合やSiteManagerサービスが起動していない場合、下記の例を参照してNQの設定状態を確認してください。

※ 以下の手順は、NQに設定されているIPアドレスを把握していることを前提としています。NQのIPアドレスが分からない場合はネットワーク接続を行うことができないため、２．２章を参照してUSBメモリによる設定変更を行ってください。

①NQを起動する

NQ筐体へ、ネットワークに接続されたLANケーブル、電源ケーブルを接続してください。接続完了後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。
但し、NQ30aの初期出荷製品は、電源ケーブル接続による自動起動を行いません。NQ30aが自動起動しない場合、電源スイッチを押下して起動してください。起動状態は、電源ランプの点灯状態から確認してください。

②telnetクライアントPCを用意する

NQへtelnetを介してネットワーク接続を行うPCを用意し、pingコマンドなどを使用してNQとの通信状態を確認してください。

［実行例］

C:¥> ping *192.168.250.250* (※)

※ 斜体部分はNQに設定されているIPアドレス、あるいはIPアドレスに割り当てられているホスト名を設定してください。

NQと通信できない場合、NQに設定されているネットワークと接続できるよう、telnetクライアントPCのネットワーク設定を変更してください。

③ NQ にネットワーク接続する

３．２章を参照し、telnet クライアント PC から NQ へネットワーク接続を行ってください。

④ 各種設定を確認する

NQ へ接続後、下記の例を参考に設定状態を確認してください。

[実行例]

```
svna> pass admin                        →認証コマンドの詳細は３．６．１章参照
+ Welcome to SvNaConsole.
svna> list if                           →ネットワークインターフェース確認
= Command succeeded.                      コマンドの詳細は３．６．３章参照
eth0     inet addr:192.168.250.250 HWaddr 00:00:4c:11:22:33
         Mask:255.255.255.0  Bcast:192.168.250.255
         Default Gateway:192.168.250.1
         UP  BROCAST  RUNNING  MULTICAST
+ Done.
svna> list ns                           →DNS ネームサーバ、ドメイン名確認
= Command succeeded.                      コマンドの詳細は、３．６．４章参照
nameserver 192.168.250.6
nameserver 192.168.250.7
domain isnq.dom
+ Done.
svna> list na                           →エージェント設定確認コマンドの詳細は
= Command succeeded.                      ３．６．５章参照、エージェント設定の
ManagerIpAddress: 192.168.250.251         各属性の詳細は４章参照
…
+ Done.
svna>
```

６．４　SiteManager インストール PC、または NQ を不正接続防止してしまった

SiteManager インストール PC や NQ を不正接続防止した場合は、SiteManager-NQ 間の通信が正常に行えなくなり、各種操作が行えなくなります。不正接続防止機能を強制的に停止させたい場合は、下記の手順を実施してください。

① NQ を停止する

NQ の電源ケーブルを抜いて、電源を停止してください。NQ30a の場合は電源スイッチの長押しでも電源を停止させることができます。

② SiteManager サービスを停止する

NQ の接続先に設定されている SiteManager サービスを停止してください。サービスの停止手順は以下の通りです。

Windows の[スタート]ボタン → コントロール パネル → 管理ツール → サービス → [SecureVisor SiteManager]を選択し、サービスを停止する。

③ SiteManager の管理するエージェント設定を変更する

SiteManager が保持している NQ のオブジェクトファイルを編集し、不正接続防止機能が無効となるよう設定します。

NQ のオブジェクトファイルは下記の場所にあります。

C:¥Program Files¥SecureVisor¥SiteManager¥Data¥AgentList¥*xxxx*¥attribute.dat

※ *xxxx* は、NQ のエージェント名を示します。

attribute.dat ファイルをメモ帳などのエディタで開き、不正接続防止機能（JamStatus）の属性を以下のように変更してください。

JamStatus: On

↓

JamStatus: Off

※ SiteManager のオブジェクトファイルは、文字コードを Shift-JIS、改行コードを<CR>+<LF>で作成されています。使用するテキストエディタの設定を確認の上、編集、保存を行ってください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。

④ SiteManager のサービスを開始する

NQ の接続先に設定されている SiteManager サービスを開始してください。サービスの開始手順は以下の通りです。

Windows の[スタート]ボタン → コントロール パネル → 管理ツール → サービス → [SecureVisor SiteManager]を選択し、サービスを開始する。

⑤ NQ の不正接続防止機能変更ファイルを作成する

NQ に設定されている不正接続防止機能を停止させるため、USB メモリのルートフォルダに以下のファイルを作成します。

［ファイル名］

svconfig.bat （全て半角小文字）

［設定内容］

```
pass admin
set na JamStatus Off
```

→ 認証コマンド(３．６．１章参照)を記述してください。

→ 不正接続防止機能を Off に設定します。

［注意事項］

・svconfig.bat を USB メモリのルートフォルダに作成する際に、設定ファイル(svconfig.txt)がルートフォルダにあれば削除してください。設定ファイルが存在する場合、防止機能変更ファイルが認識されません。

・svconfig.bat は、全て半角文字で作成してください。

・svconfig.bat で使用可能な文字コードは、Shift-JIS、および EUC です。また、使用可能な改行コードは、<CR>+<LF>、および<LF>です。使用するテキストエディタの設定を確認の上、作成してください。なお、Windows 標準のメモ帳は前述の設定を満たしているため、問題なく使用できます。

・[設定内容]で指定された記述以外は行わないでください。指定以外の記述を行われた場合はサポート対象外となります。

⑥ NQ を起動する

NQ 筐体へ、svconfig.bat を保存した USB メモリ、ネットワークに接続された LAN ケーブル、電源ケーブルが接続されていることを確認してください。接続確認後、電源ケーブルをコンセントへ差し込むことにより、自動起動します。

但し､NQ30a の初期出荷製品は､電源ケーブル接続による自動起動を行いません。
NQ30a が自動起動しない場合、電源スイッチを押下してください。起動状態は、
電源ランプの点灯状態から確認してください。

上記手順実行後、NQ は起動時に SiteManager へ接続することで設定内容が同期され、不正接続防止機能が無効となります。
不正接続防止機能を再度有効とする場合、ホスト一覧を使用し、ネットワークへの接続を許可する機器が全て接続許可状態になっていることを確認してから設定してください。

６．５　現在の NQ のバージョンが分からない

NQ のバージョンは、SiteManager インストール PC から確認することができます。確認手順は、下記の通りです。

■NQ 単位で確認する場合

1. SiteManager インストール PC で、サイトコンソールを起動します。サイトコンソールの起動方法は、以下を参照してください。

Windows の[スタート]ボタン → (すべての)プログラム → SecureVisor →サイトコンソール

2. サイトコンソールでエージェントのプロパティを選択し、エージェント設定ダイアログを起動させ、[バージョン情報]を確認してください。エージェントのプロパティ選択方法は、以下のいずれかを参照してください。
   - ・バージョン確認対象の NQ のエージェントアイコン上で、マウスの右ボタンを押下してポップアップメニューを表示させ、[プロパティ(P)...]を選択する。

   - ・バージョン確認対象の NQ のエージェントアイコン上で、マウスの左ボタンを押下して選択する。選択後は、以下のいずれかを実行してください。
     - ●メニューバーより[ファイル(F)] → [プロパティ(P)...]を選択する
     - ●ツールバーの左から 2 番目の[プロパティ]ボタンを押下する
     - ●エージェントアイコン上でマウスの左ボタンをダブルクリックする

■複数の NQ をまとめて確認する場合

1. SiteManager インストール PC で、サイトコンソールを起動します。サイトコンソールの起動方法は、上記の「■NQ 単位で確認する場合」の 1. を参照してください。
2. サイトコンソールのメニューバーより[ツール(T)] → [エージェント情報一覧(T)...]を選択する。エージェント情報一覧ダイアログが表示され、SiteManager が管理しているエージェントの IP アドレス、バージョン情報などを一括で確認することができます。

７．その他

７．１　SecureVisor の最新情報

SecureVisor に関する最新情報は、下記のウェブサイトを参照してください。

http://www.sw.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/SecureVisor/

～ 以上 ～